

会見内容

午前11時00分 開始

【広報広聴課長】 それでは、定例記者会見を行います。まず、市長からお願いします。

【市長】 2月になりまして、大変良いお天気が続いておりますけれども、余り天気がよ過ぎてちょっと心配かなというふうに思っております。個人的で申しわけありませんけれども、はやから花粉が飛んできているのかなということでもあります。環境も変わってきたかなというふうな意識もありますけれども、2月、このようなお天気のように、良いまちになるように頑張っていきたいと思っております。

では、よろしくお願いします。

私の方から、概要についてまず説明させていただきます。

まず第1点でありますけれども、金ケ崎地区の交流拠点用地の活用方法のアイデア募集を行いまして、いろいろとアイデアをいただきました。現在、私ども「人道の港 敦賀」を初めといたしまして、敦賀港、本港地区でありますけれども、それを核といたしました観光振興に努めているところでありますが、この中で金ケ崎緑地の交流拠点用地がございます。敦賀港周辺のにぎわいづくり、また観光振興につながる魅力づくりに活用したいというふうに思っているんですけれども、平成18年12月6日から平成19年1月10日までの約1カ月間、交流拠点用地の活用方策についてということで市民の皆様方から提案を募集いたしましたところでございます。その結果は、皆様のお手元にお配りしてあるとおりでございます。応募人数、応募手法、またアイデア等々、内容につきましてはそこに記載のとおりでございますけれども。

私ども、あそこは県の用地でございますので、県とも協議をして、そして市民提案も踏まえて、交流拠点用地にふさわしい施設等の整備を検討していきたいと思っているんですけれども、やはり行政が主体でやるのではなくて、民間の活力を導入したものになりたいというふうに私どもでは思っているところでございます。

まず第1点につきましては以上でございます。

あと、中に細かく書いてございますが、また後ほど御質問等いただければというふうに思っております。

次に、今後の民営化の保育園についてでございます。

敦賀市保育園民営化検討委員会の答申に基づきまして、16の公立保育園があるわけです。これは20年度の松原保育園を除いてございますけれども。その中から選定した結果、次の保育園を年次に民営化することに決定をいたしたところでございます。

その民営化の対象園でございますけれども、木崎保育園を平成21年の4月、そして金山保育園を平成22年の4月、新和保育園を平成23年の4月を目標に設定いたしております。今までに民営化した園につきましては、ご承知のとおり中郷西保育園と、松原保育園は来年の4月からの予定でございます。

それとまた、ちょっと港の方に戻りますけれども、私ども旧の敦賀港、そして中心市街地かいわい、新たなにぎわいと活性化をつくり出したいということでございまして、国土交通省が行います効率的なまちづくりのためのソフト事業とハード事業の連携施策調査に「敦賀港芸術村構想」として応募いたしました。その結果、昨年12月27日に全国で13カ所が選ばれたんですけれども、その中に敦賀市が決定をいただいたところでございます。

今回のこの調査概要といたしましては、敦賀港緑地周辺の施設などを活用いたしまして、市民、また市民団体によりますイベントの企画や開催、そして運営など、社会実験を実施しまして、市民の皆さん方はもとより、誘客等の参加を促進しながら、にぎわい創出を目指すための調査を本年度、国の直轄調査事業として実施するものであります。その取り組み成果を踏まえて、独自性と継続性を持った運営等々、ソフト、ハードの連携した事業の確立をして、市民主導、また市民協働のもとで芸術村を核とした新たなにぎわい創出をすることが目的になっております。

私ども、本事業を通じまして市民の皆さん方や団体等の皆さん方が、あそこが本当ににぎやかになる地域に向けた、またそういうまちづくりの主体となっただきまして、敦賀港芸術村構想、市民の皆さん方の熱意をもちまして何とか軌道に乗せていただいて、直流化の事業も昨年完成いたしましたけれども、そういう事業と連携をして、関西、中京方面からのお客さんをもてなしながら、さらに市民交流が深まればなというふうに思っております。将来的には、海外との交流促進などもされるということの期待もいたしております。

そういう芸術村構想というのを実行していきたいと思っております。

それと、病院の事業でございますけれども、前回もちょっとそういうお話も出ておりま

したので、ちょっと報告をさせていただきたいなと思っております。

敦賀病院もいろいろ努力をしながら、患者さんに対する対応等々も医師、また看護師さんも、また事務局も中心となっていていろいろとやっているんですけども、そういう中で前回でしたか、良い病院、またクオリティの高い病院になろうということで私ども努力しているということでもあります。その取り組み等々についてご報告させていただきたいなと思っております。

特に私ども、今、患者さんとの心の通う医療でありますとか、また患者さんに優しい、そして開かれた病院、それと、いつも言っておりますけれども質の高い医療をやはり分かりやすく提供するという、この3つの基本方針に基づきましていろんな取り組みをさせていただいております。

それでは、医療の質、効率性とは一体どんなものかということでもありますけれども、例えば各診療科におきましては症例検討会というのを行っております。これは例えば内科ですと週に1回実施いたしております、質の高い医療を提供できるように努めさせていただいております。

また、病理解剖といいますか、専門用語で私も理解できないところもあるんですけども、適切な診断方法でありますとか治療方法、そういうものを参考にして、例えば平成16年度ですと25件ございましたし、17年度も15件実施しながら、医療の質の向上に努めさせていただいているところでもあります。

たくさんありますけれども、ずっと説明した方がよろしいですか。10分ぐらいあるんですけれども。

【記者】 大まかなところで。

【市立敦賀病院事務局長】 では、私の方からちょっとお答えをさせていただきます。

インフォームド・コンセントの実施ということをやっております。そして、高度先進医療のため第3次整備計画におきまして、医療機器の整備を図ってきております。あと中央採血ということで、中央採血室を設けまして採血業務を中央管理化いたしまして、診療予約時間に合わせた検査の効率化を図っております。そして、医療の質と効率を向上するために平均在院日数の短縮を図っております。平成16年度は25日ございました。17年度は22日。平成18年度は、4月から12月までで今現在17日となっております。そして、医師、

看護師等を随時、学会、研修会等へ参加させましてレベルアップを図っております。

以上が医療の質や効率化に関することでございます。

次に、心の通う開かれた病院ということで、医療温もり相談室を開設いたしまして相談に応じております。相談人数は、16年度で469人、17年度で891人、18年度で前期でございますが1960人となっております。

そして救急の受診状況ということで、救急の受診者数は16年度で1万4037人、17年度で1万1948人、18年度で1万1944人、18年度につきましては、半期分でございます。

そして病院の機能評価というようなことで、医療機関の機能を学術的な観点から、また中立的な立場で評価していただきまして、その問題点等の改善や支援をする第三者機関として設立された財団法人日本医療機能評価機構が実施している病院機能評価を受けているということでございます。

【市長】 それではもう1点、ベロタクシー、例の営業運行を開始したいということで今思っております。これは、ことし4月から観光協会で営業運行を開始したいというふうに思っておりまして、現在その運行に係る準備を進めております。運行コースでありますけれども、アーケード街の下の歩道を走ることを目標にしております、県の総合交通課にて内閣府へ特区申請をいたしております、2月の下旬ごろにその可否が出る見通しでございます。どっちかと言われると、今のところちょっと分かりません。どちらか、いいと言うかだめと言うかわかりません。コースにつきましては、いいという場合と悪いという場合がございますので、私ども市街地めぐりということで、やはりメインコースは本来ですとアーケードの下を走りたいんですけれども、仮にだめという場合には、清水町の車道を走るコースを今見込んでおります。

私どもも夏は海水浴のシーズンを迎えますので、松原へも夏場はベロタクシーで市内を散策しながら行っていただくようなコースなども考えております。

運行期間につきましては、4月から11月の土、日、祝日となる見通しでありまして、快速電車の到着に合わせて営業をしていきたいというふうに思っております。

料金につきましては、500メートルまで初乗りが300円、100メートルごとに50円、1時間の貸し切りでは1500円で検討をいたしております、2月には営業運行を行うドライバーを一般公募したいと思っております。大体10名程度になる予定であります。

ベロタクシーの車体、前もごらんになっていただいたと思いますけれども、広告が取れますので、あの部分、広告を入れて、広告の収入といいますか、そういうものもやりたいと思っております。これも近日中に募集をしたいなというふうに思っておるところであります。

以上、私の方からご報告いたしましたので、よろしくお願いします。

【広報広聴課長】 それでは、今市長から発表したもの、それ以外のものについても今回は結構でございますので、含めて、皆さんご質問あればしていただきたいと思えます。

まず、幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 保育園の民営化なんですけれども、この3つが何でこういう順番に決まっていたのか、その根拠は何ですか。

【市長】 例えば、まず木崎保育園を21年4月に挙げたんですが、昭和47年につくられて、ちょっと古い建物になっておりますし、34年たっております。そこで、従来から建てかえをしてほしいという要望があるものですから、その建てかえもして、良いものにまずして運営していただければ。それと、結構この保育園のある場所、木崎を中心に結構人口も多いもので、若い世帯も多いものですから、あそこをやはり直してあげたいなど。いい保育園にして。前も言いましたけれども、良いところだと、やろうというようなものが出てきますので、そういう点であそこをきれいにした形でやりたいので、まず第1点ここを選びました。

【記者】 建てかえるんですか。

【市長】 そうです。きれいに。

【記者】 新築するということですか。

【市長】 まあ、きれいにですね。予算のこともある。できるだけきれいに。できれば。34年たっておると大体建てかえをしないと無理かなというふうに思っております。

それと、井ノ口川の拡幅工事がちょうどあそこ今関係しておりますから、そうすると、あそこに祝橋という実は橋がありまして、その工事が21年に、のり面やらのいろんな工事があるということでございます。そうすると、やはり建てかえですね。

【記者】 建てかえた後に民営化すると。

【市長】 そうです。それで第1番目に挙げさせていただきました。

金山保育園でありますけれども、これは比較的新しい建物で、築13年であります。ここは大規模な改修というのはありませんけれども、少しきれいにしていきたい。それも、例えば運営をしていただく方も案外していただけそうな感じがしております。

新和保育園でありますけれども、これはちょっと古いんです。25年実はたっているんですけども。私も現場も見させていただきましたが、場所的にも非常に良いですし、民営化の委員会の報告の中の選定基準をちゃんとクリアしております。そういうことで、新和保育園というふうに、まずこの3園を順番に民営化していきたいと思っております。

【記者】 保護者の方には一応伝えてはあるんですか。

【市長】 これから説明をまいります。

【記者】 松原のときは、結局ああやってもめたわけですけども、あの教訓を踏まえて、どんな話をしようと。

【健康福祉部長】 松原保育園には、当初3カ月間の引き継ぎ期間ということで、その引き継ぎ期間が非常に短くて子どもさんに影響が出るのではないかという保護者のご心配がございまして、その後うちの方も市としても検討させていただいて、引き継ぎ期間は1年間させていただくということで保護者の方にご理解をいただいて同意を得たということでございますので。

松原保育園の内容が、一応そこでしているご要望が一つのガイドラインになるということです。木崎保育園も同じように1年間引き継ぎ期間をさせていただいて、子どもさんに影響が出ないような形で引き継ぎができるようにして保護者の御理解をいただきたいというふうをお願いしにまいります。

【記者】 3園とも1年間ずつやるんですか。その前年で。

【健康福祉部長】 はい。

【記者】 交流拠点用地なんですけど、この間もありましたが国土交通省のモデル事業で敦賀港が選ばれている交流促進協議会がありますよね。あの中では、歴史的な建築物を生かしながらロマンあふれるという話をしながら、また同じ地区で芸術村構想というのをやるわけですね。

結局、真ん中に通っているのは、何を中心に敦賀港をやろうというふうに考えているんですか。

【市長】 やはり基本的には、人が集う、要するに交流ですから、にぎわいのある地域にしたい。そのためには文化的なものもあればいいし、施設の中は例えば芸術的ないろんな展示があったり、音楽活動があったり。要するに人が基本的には集ってもらえる地域というのが基本になっています。そのためにいろんな手法があるかなと思うんですけれども。

絞り込むのも一つでしょうけれども、やはり私どもは人口が少ない地域でありますし、敦賀ではなかなか専門店というのがやりにくいのと一緒でありまして、そういう点ではいろんなものを活用して、もちろん古いものもありますし、隣には金ヶ崎さんの神宮もあれば、新しい港もあれば、レンガ倉庫もあればというようなことがありますので、新旧交えた、もちろん文化、歴史。それにまつわる芸術があったりして。要するに、多くの人が寄ってくれる港にしようという考えがあります。

【記者】 保育園の民営化を受ける側というのは、需要は大丈夫なのでしょうか。

【市長】 敦賀にもそういう法人がたくさんありますし、そういう皆さん方が、よしこならやろうということでやっていただけるのではないかと思います。

【記者】 たくさんはありますが、この前応募したのは結局1社だけだったのではないのでしょうか。

【市長】 新築とちょっとまた違う。新しいと。

【記者】 市外にも広げるというようなお考えはあるのでしょうか。

【市長】 そうですね。どうしても市内ではだめであれば、ある程度広げて、ほかの皆さんでもやれるという人がいらっしゃれば。もちろん基本は市内にまず声かけをして、どうしてもなければ、そういうところにもやはりやっていかなくてもはやむを得んのかなと思います。

【記者】 交流拠点用地ですけれども、これは県の事業用地になりますね。

【市長】 そうです。県の用地です。

【記者】 国際交流貿易課に聞くと、やはり市民のアイデアを募りたいからということで、行政ではなくて、ちょっとやわらかいアイデアということでお聞きしましたが、県との協議の中で、市民のアイデアを生かすことをどう担保していくのかということと、どう具体的なスケジュールでもって決めていくのかということとを教えてください。

【産業経済部長】 今の交流拠点用地につきましては、御存じのように現在県の用地でこ

ざいますが、あその土地を生かすということで、今現在、県との協議につきましては、購入をさせていただくかお借りをするか、そのあたりの協議になろうかと思います。

市民からのご提案をどういう形で生かすかということでございますが、かなり広い面の提案をいただいておりますけれども、基本的には民間の資本を、また民間でやっていただくということを基本として、市がそこへお金を入れなくてもいいような形での事業化をしていきたいということで、今後県と協議をしながら、なおかつ市民のご提案を取り入れて考えていきたいということでございます。

今、敦賀市へたくさんの方が観光で来ていただいておりますけれども、その中でも港の方でのレストランですとか喫茶店、こういったものへの希望というのがかなりございますので、このあたりであれば民間の資本で十分やっていけるのではないかという形で今現在思っておりますけれども、今後そのあたりで協議をしていきたいなというふうに考えております。

【記者】 検討委員会のようなものを設置するような方針であるというふうに伺いましたが、そういったスケジュールみたいなものは全然ですか。

【産業経済部長】 現時点でそのスケジュールというのは立てておりませんが、今後、県と協議しながら、そのスケジュールを立てながら、またどういう形でそれを選んでいくかということも含めまして協議をして、決まりましたらご報告申し上げたいというふうに考えております。

【記者】 要は、民間の資本ということで懸念があるのは、あそこにどういう建物が建つかという歯どめというのはちゃんとあるのか。景観を損ねないという条件はあると思いますが。

【助役】 そういう縛りはかけないといかんですね。

【記者】 つまり、民間だったら何をもって縛るのか。

【市長】 それは絶対ありますね。

【助役】 やっぱり景観、ロケーションにマッチしたものでないと。

【記者】 三セクにするんですか。

【市長】 いや、できれば民で。

【記者】 民でやってくれと。

【市長】 はい。

【記者】 民でやると、今度は官が縛りつけると何かとうるさいと言われている。

【助役】 その中でその条件をクリアして、このロケーションに市場価値を認めるかどうかです。ゼロかもしれません、今言われるように。ひょっとしたら。ここはまた、そうすると次のステップを踏まないかん。

【記者】 大体、官主導による民間資本によるあれというのは、失敗例をたくさん聞いていますので。どこまで自信があるのかという担保があるのかどうか。

【助役】 自信があるのは、あの風景のよさですね。

【記者】 それは意味ないけれども。それは。

【記者】 イメージ的に、きらめきみなと館の横にまた同じような箱物を一つ建てる。そういうイメージですかね。

【市長】 民がやりますので、箱物とはならないと思います。

【記者】 民がつくっても箱は箱でしょう。しかも何か今の感じだと、市長は要するにこういう方向性でやろうというコンセプトは決まってないですよ。そもそもアイデアもばらばらですね。

【市長】 それを今から。ただ、あそこも県の地面なものですから。市であれば、まだこちらが主導してやれますけれども、やはりしっかり県と協議をしませんといかんと思っています。あくまでも民の力を入れて、当然あそこの背景に合う、全体の背景に合うものということになると思います。

【記者】 レンガ色の外観とか、そういうことですか。

【市長】 いろんなやつがあると思いますけれども、やはりあそこにマッチした形でないと。例えば県も入ってもらって、いや、それでは貸せない。要するに、どうぞ自由に使ってくださいというわけにはいきませんので、それはしっかり絞り込みはできると思います。

【記者】 民間資金は出ますかね。一回、駅前の市営住宅の建てかえのときに民間資金を導入しようとして、結局お金が集まらないということでポシャった経緯もありますよね。ここに民間資金としてビジネスをやるだけのあれとして価値があるかという、民間資金頼りでできますか。

【市長】 あそこのロケーションならできる。

【記者】 交通アクセスも悪いじゃないですか。そもそも、きらめきみなと館のあれだって。

【記者】 危ない。

【記者】 相当な。あれだけの赤字で、あれだけつくってもあんな有り様になっていると
いうことで。

【市長】 今は何とか元気になってきていますので、そういうのを一歩ずつ。

【記者】 でも毎年赤字はやっぱり出ているわけですね。1億と言われている。

【市長】 みなと館ですか。

【記者】 みなと館。

【市長】 いや、もうあれ。シアターのときは出ていました。例の3Dシアターのときは。
今はもう出ていません。

【記者】 今は出てないんですか。

【市長】 今はどのぐらいでしょう。

【助役】 大分減りましたね。

【市長】 シアターやめただけで6000万ほど浮きましたから。

【助役】 今年度は収支はまだ出ていないので。

【記者】 その同じようなものをまたつくるようなことにならないのか。

【市長】 いや、全然違うと思います。

【記者】 どう違うんですかね。

【市長】 それは、これからここに出てきたアイデアの中で選定をしていけばいいと思います。

【記者】 もうちょっと何か…。

【市長】 例えば、いろんなアイデアをいただきましたけれども、いろいろあるんです。
とてもお金がかかってやれないというものもありましょうし、これならやれる可能性もある
なというものも出てきていますから。それで選んでいけばいいと思います。

【記者】 駅舎の、どういうデザインにするか、改築するときの委員会の経緯を見ていて
思ったんですけれども、もうちょっとまちづくりのコンセプトというか、こういう港と歴

史とか人道の港という、そっちの方向でいくのか、それとももうちょっと近代的な、あつとほうむとか、ああいう原子力のあれでいくのかとか、もうちょっと市長がグランドデザインというのを少し引っ張っていくようなイメージというか方向性を出した方が良くないですか。あれもやろう、これもやろうということで何か統一性がないですね。

【市長】 でも、人道の港ということは一番メインのところにまづなっていますから。

【記者】 それと連携するんですか。

【市長】 できると思います。いろんなアイデアがあれば。人道の港であるということは、うちの大きな一つのもとでありますし、それに対して人が集う、人が集まるようにする。そういうためのいろんな施設も整備をする。そして、そういう力を果たしてくれる民の力も入れていくということでもありますので。そういうものをうまくあわせてやるのが私は一番良いと思うんです。

【記者】 人道の港と芸術村とは相いれないような。どういうふうに。ちょっと企画に無理があるような感じがするんですけども。

【市長】 これは人、人道。やっぱり人でありますから、またその人が芸術というものについて人間の豊かさ、心の豊かさ、また命の大切さ、そういうものをいろいろ訴えるのも芸術でありますので。そこにベンチャーズがバンと入ると、ちょっと違和感ありますね。

【記者】 ちょっと違和感あります。

【市長】 これは違和感ありますから、そういう違和感のない形の芸術的なものも取り込むことは大事だと思います。

【記者】 その発言、ちょっと違和感あるんですが。

【記者】 そうしますと、敦賀の港をどうしていきたいというのを改めて問い直しますと、どういうコンセプト、どういうものが核になると言えるんですか。

【市長】 それはなかなか絵を描くときの難しさはあるんですけども、絵によっても、例えば森を描く、いろんな絵がありますけれども、抽象的な絵もあると思うんです。そういう意味では、柱の中は、とにかく人が集まってくれる港にするためにどうするかというのが主で、一番太い枝というのは、やはり人道の港というのは私はあると思うんですね。それを入れていきながら、また、その集まってきた皆さん方が、これもあるけれども、こういうことも楽しめるなというもので、来た人がいろんなことを楽しめる。例えばおいし

い食事もあればいいし、人が集まれば。だからよく今、複合施設といいますか、映画もあればこれもあるという施設が今の流れの中で主流を占めている、そういう商業施設が多いというふうに思いますので、そういうやはり人を集めて、人が来ることによってその施設も潤う、また敦賀市も潤うというようなことで。

じゃこれだけに絞ろうと。例えば人道の港に絞って、他のものは一切入れないということとは…。

【記者】 いや、そうではなくて、何らかの核とか中心の幹から枝葉が出てくるのは理解できるんですけども、その幹になるのは人道の港という認識でいいんですか。

【市長】 私はそれでいいと思います。

【記者】 それを中心に、芸術にも行くということですね。

【市長】 はい。

【記者】 原子力の話なんですけど、けさの朝刊、新聞各社、東電の検査偽装とかが発覚しましたけれども、市長は全原協の会長として、東電は直接は関係ないですけども、全原協の会長として、あの一連のミスをどのように受けとめていらっしゃるのかなと思うんですけども。

【市長】 やはり検査というのは、私ども、しっかり検査をして、それが安全に結びつくというふうに思っていますので、そういう点で、そういう面の信頼を非常に裏切るものであるというふうに思っております、これは大変遺憾であると思っております。

そういうことで、例えば全原協でどうされるかということでもありますけれども、やはりまた全原協の役員会等もありますので、そういう中で私ども全原協という立場でしっかりと申し入れをするなり、そういう行動はやはりとっていかなくてはならんというふうに思います。

内部調査で出てきたんですから、そういう姿勢は今までは隠していたものを出したという点は評価できる点もございますけれども、今後やはり原子力の中にあって、とにかく安心、安全。安心というのは、ほっとするのが安心でありますから、そういう国民や近くに住んでいる人がほっとできる施設であり続けてほしいというふうに私ども願っていますので、そういう観点から、またいろんな申し入れなどしたいと思います。

これはまたいろいろ東電の関係の地元のいろんな皆さん方も、自治体もありますので、

そういう皆さん方ともいろいろ相談をしたいなと思っています。

【記者】 それに関連して、日本原子力研究開発機構の早瀬本部長は東京電力の原子力出身ですけれども、それに関して不信感を抱くということはないですか。

【市長】 それは今は日本原子力研究開発機構の本部長で来られたんですから、その職務を一生懸命やっていただければいいというふうに思います。

【記者】 私、経歴を見ていたんですけれども、平成4年5月に柏崎刈羽1号機でポンプの故障が隠ぺいされていたというふうになっているんですけれども、そのとき早瀬さんは柏崎刈羽原発の技術部長をされていたようなんですけれども。

【市長】 私そこまでちょっと知らなかったものですが。

【記者】 そうですか。

【市長】 これからはそういうことのないように。もちろん今の日本原子力研究開発機構の方でもしっかりやってほしいなと思いますけれども。

【記者】 その隠ぺい体質は、日本原子力研究開発機構には波及しないというか…。

【市長】 大丈夫だと思います。

【記者】 全原協の委員会で検討をして、申し入れをいつぐらいにやられますか。1週間後というわけでもないでしょう。きのうの話ですからね。

【企画部技監】 この事象につきましては、きょうの朝の新聞で初めて私たち情報を得たということでございますので、どういった中身であるかと、今のところ情報収集に努めております。先ほど市長申し上げましたとおり、地元市町ともよく協議しながらやっていきたいと思っておりますので、いつの時点でどういうことをしていくかというのは今のところはまだ結論というのは出ておりません。今検討しているというところです。

【記者】 市長としては、お気持ちとしてはどうですか。

【市長】 連絡をとり合って情報を入れて、できれば早目にやりたいなと思います。

【記者】 基本的に、去年の秋からずっと起こっているデータ改ざん事件とつながるあれで、あちこちで出てきて国が一斉調査をしたらまた出てきたというやつの最大級のやつだと思うんですけれども、どうですか、市長として。地元でも原電でやっていますし、まだ原因調査中ですね。お隣の関電でもやっていますし。足元も脅かされているという感じがすけれども。

【市長】　ともかく今、それだけ調査をしてやっています。ともかく、膿は出すだけ出して、いろんなまた最終的な報告もあるというふうに思いますので、それをまず今のところは見きわめていくという状態かなと。今調査していますので、やはり結果を待って、また全原協として、また地元の自治体として対応できるように。結果が出れば、迅速にしたいなと思います。

【記者】　こういうことが起こることによる市民感情への波及というか悪化というか、原子力への信頼の喪失ということについては、どう思われますか。

【市長】　やはりあると思います。市民の皆さん方は、こういうことが続きますと非常に不信感を持ちますので、そういう点でも今後そういうことのないようにしっかりやってほしいということを十分伝えていきたいと思います。

【記者】　今までの温排水のデータ改ざんと違って、今回完全に悪意的な、悪質な改ざん。ECCSのことなんかを見ても本当に意図的なものじゃないですか。そんなことを隠ぺいするような電力会社、今回は東電ですけれども、立地の市長としても、そういう会社でも信頼していけるんですか。そんなことを出されたら、すべてのことが信じられなくなってしまいう今回の根本にあると思うんですけれども。

【市長】　これは私どもの直接の地域にある会社ではありませんので。私どもは日本原電なり持っておりますけれども、仮に私どもであれば、本当になかなか信頼というのは築けない。柏崎の市長なり、また新潟県知事も非常に憤りを感じているということで出ておりましたけれども、やはりそれが普通の心だと思います。

そういうことの本当にならないように。私どもも一番今大事なのは、先ほど言いましたように安心。安全は当然なんですけれども、安心部分に非常に信頼というものをなくするところでありますから、こういうことについては重々気をつけてほしいのと、まだ出たばかりでありますから、その辺のしっかりした調査、情報収集は私どももしっかりしたいと思えます。

【記者】　早瀬敦賀本部長がそのときにあの事件の中核にいたというのは、これはやっぱり深刻な事態だと思うんですよ。この前の会見のときに、我々も就任直後の会見で行ってましたら、彼は2000年ですか、東京電力のデータ隠し、事故隠し事件というのがあって、東京電力のすべての原発がすべて停止して大騒ぎになったわけです。そのとき彼は火消し

役の中核で、本店で再発防止とか全部やって、膿を出して、それを彼は誇らしげに、こういうことをやりましたというふうに言って、その教訓も生かして敦賀本部長として今後もんじゅの運転再開に向けてやっていきたいと言っていましたけれども、こういうことからね。そういうことに続く彼に対する信頼感というか、それはどうですか。そういう人がこれからもんじゅを動かす中核として、地元のトップになるわけでしょう。敦賀本部長ですからね。

【市長】 一度、きょうのニュースでありますので、今も本部長の経歴等もお聞きしましたから、このあたりにつきましては一度また話もさせていただきたいと思います。

【記者】 日本原子力研究開発機構とということですね。

【市長】 本部長と、こういう話題が出ていますから、こういうこともあるよということで聞いてみます。

【記者】 今、平常時の立入検査とかはできるようになっているじゃないですか。そういったことで何か市とか県とかとそうしながら、自治体としても何かアクションを起こすというのはあるんですか。

【市長】 私どものここの中ですか。

【記者】 東電の話ですけれども、地元の電力会社はどうなんだというような。

【市長】 その確認みたいなことでね。

【記者】 はい。

【企画部技監】 この件につきましては、日本原電が昨年の11月の末に国から調査をなさいということで、今調査が行われております。我々としては、どういった調査が行われていて、どういったところまで進展しているのか、その辺をまず十分に確認をしていきたいと思います。

あと立入調査につきましては、昨年度より平常時の立入調査ということも当然実施をしております。これから各事業者からいろんな事象を聞いて、こういった立入調査が必要だということになれば対応をしていきたいと、そういうふうに思っております。

【記者】 今のは立入調査も検討しているということでよろしいですか。

【企画部技監】 いや、そういうわけではない。まず、どういったものかということ、まず中身を知ってからでないと、対応するのは少し早いのではないかとということですね。

この事象がすぐ外部環境に影響があるとか、そういうことでしたら今すぐ対応しなければなりませんけれども、まず中身がどういうものであるか。特にこの件につきましては東京電力ということもありますので、まずどういうものであるか、それを確認しなければいけないということです。

【記者】 河瀬市長は、ほかの自治体と連絡をとり合っていると言うけれども、ほかの例えば地元の新潟の市長なんかと直接もう話したりされましたか。電話とか。

【市長】 いや、まだ。柏崎ね。まだしていません。

【記者】 今後、当然、電話で話をするなりということをしていくわけですか。

【市長】 そうですね。まず事務局同士で連絡をとって、どういうふうにするか。また役員会を開こうとか。そういうやつでは対応を。恐らくうちだけでなく、例えば九州の方、いろんな自治体が入っていますので、そういう皆さん方もやはりそれぞれの電力会社がその地域にありますから、同じような心配は恐らくされていると思いますので。

うちの役員は、うまく地域ごとに役員を選出しているんです。ブロックで、九州と四国とか、私どもとか。必ずうまくバランスよく役員がおりますから、そういう皆さん方とまた早目に連絡をとっていきたいと思います。

【記者】 敦賀市は西日本ブロックか何かの中核ですか。

【市長】 敦賀は何ブロックかな。

【企画部技監】 全部で5つのブロックに分けておりまして、この辺はBブロックということで近畿付近ですね。

【記者】 北陸ですか。

【企画部技監】 北陸はCブロックに入ります。志賀原発のあるところは。

【市長】 バランスよく役員が来ていますから。

【記者】 全原協の会長として何らかの申し入れをする方針というのは、いいんですか。

【市長】 恐らく役員集まっていけば、何らかの形は出てくると思いますけれども。

【記者】 その申し入れの内容というのは？ まだ決まってもいないでしょうけれども。抗議というか。

【市長】 またその辺ちゃんとまとめて、まとめてこういうことになれば、またご報告します。

【記者】 相手は東電になるんですか、電事連になるんですか。

【市長】 全体的な問題になれば。東電となれば、やはり地元の立地の自治体の皆さん方に積極的にやっていただきましょうし、全体として問題があるのであれば、電事連ということになれば、私ども全原協として対応したいと思います。

【記者】 関電も最近、異様にトラブルが多くて、この前、御存じのとおり美浜3号がいよいよ起動というとき、ホウ素の調整をミスするという。ホウ素というのは、制御棒と同じアクセルとブレーキみたいなものですけれども、そういう初歩的なミスを犯して、規定どおりの時間より9時間遅れないと原子炉が起動できないという前代未聞というか、非常にまれな、事故ではないにしても初歩的なボカですよね。そういうことをやらかしているんですね。

高浜原発では、従業員が4人、放射能を帯びた冷却水をかぶるとか、ホースは持ち出すとか。不祥事が相次いでいるんですね。

大阪の本店にもこの前行ってきましたけれども、外部の有識者も相当懸念してしまして。

これは当然、美浜原発の場合は半径10キロ圏内に敦賀市民が住んでいるわけで、隣接協定も結んでいますよね。どうですか。敦賀市としても改めて、原電のデータとは別に、関電に対して何か。

【市長】 これは当然、美浜町なり高浜町、おおい町もありますけれども、関西電力の直の自治体もありますので。私ども、立地協があります。嶺南で掲げている立地もございしますので、そういうちょっとしたボカであるとか、そういうことにやはりならないような形で、しっかり気を引き締めてやれということは。

立地協は今度いつあるんやろう。

【企画部技監】 今のところ予定は決まっておりません。

【市長】 またその辺、会長にでも話しして、そういうことのないように引き締まってやろうということで、また申し込みなどを。これはまた会長に相談しなければなりませんけれども。

【記者】 今、立地協の会長はどこですか。

【企画部技監】 おおい町です。

【記者】 じゃ、おおい町、高浜町なんかと連携して、関電にこれも申し入れると。東電

のやつとは別に。

【市長】 しっかりやれということだね。

【記者】 済みません、原子力の話ばかりで。

1月に新年の年始あいさつに日本原子力研究開発機構の岡崎理事長が来たときに、日本原子力研究開発機構として、ふげんの解体で出る放射性廃棄物は、まだ最終処分地が全く決まっていないので、当面の間、敦賀市内に貯蔵するということを表明したんですが、これはオフィシャルに、初めてああいう公の場で言ったのはあれだったのであれでしたけれども、どうですか。そうなるのではないかとされていましたけれども。

【市長】 私どもは、基本的に原子力、ああいう施設は立地しましたけれども、廃棄物なりそういうものをうちのところで処分していいという約束も何もしておりませんから、そのときには持って行ってほしいということでありまして、それは今のところはそうおっしゃっても、うちのところで、はいどうぞ置いてくださいというわけにはいかんと思います。現時点では、まだかかっていませんけれども、順番にそういう事態を迎えると思いますけれども。

【記者】 きんのうの安管協でも出ていたんですけれども、当初ふげんが来るというとき、当然まだ河瀬さんは相当お若かったのではないかと思いますけれども、そのときには、来て、最後運転を終えて全部事業として終わるというときには、きれいに更地にして日本原電に返すと。そういうような話だったわけですね。

【市長】 きんのう吉村さんがちょっとお話ししていましたけれども、あれも確実に書いたものがあるとかではないけれどもという。ただ吉村さんにすると、あの当時、市会か何かされておった時分なので、そうかなと。私は恐らく子供の、まだ小学生のときでしたので分かりませんが。恐らく基本的には、最後は更地で返すよというのが、本来だとそうだったんじゃないかなと私も思いますし、恐らく今も新規立地もやっていますけれども、やるときには国の方も最後はちゃんと返しますよという形があるので誘致をしている可能性もありますから。

私ども、例えば今の施設なんかどんな話になっているのかな。

【企画部技監】 ふげんにつきましては、市長今おっしゃられた、あれは日本原電の地面ですので、更地にして返すということで、それ以上、計画を変えたというようなそういう

ことは一切聞いておりません。

【記者】 しかし、最終処分地は全く決まっていなくて、事業主体すらも決まっていないし、最終処分場の建設のための費用負担の制度も全くできていない中で、ことしの春ぐらいには廃止措置計画が認可されて解体が始まるわけですね。それはどうなんですかね。何度かこの質問はしていますけれども、改めて。

【市長】 恐らく一般的な廃棄物あるでしょう。例えばビルがあってそれを砕いたり、放射能に全然関係ない部分については、一般廃棄物としてそういう処理ができればいいけれども、問題点は炉心であるとか放射能に汚染されたところをどうするかということでありますので。そのことにつきましては、やはり国が責任を持って処分をしていただくと。私どもは、国が責任を持って処分していただくということで。

【記者】 それを今の時期に、いよいよ廃止措置計画が認可になろうというこの時期に、改めて国に申し入れをしたりしないんですか。

【企画部技監】 今の件ですけれども、以前にもご質問ありましたけれども、今、日本原子力研究開発機構におきましては、解体に伴って廃棄物が発生し、廃棄施設へ搬出することが必要となる時期までに確定するというのを明言しております。したがって我々としては、先ほど市長も言いましたけれども、放射性廃棄物が敦賀市内に永久に置かれるということ、そういうのは全く想定はしておりません。

たとえそういった放射性廃棄物の処理とか処分のいろんな施設とか、そういうものが必要になってくれば、勝手につくるということは当然できませんので、その辺につきましては当然我々の方から協定に基づく事前了解もあるということも、以前お話をしておりますとおり、勝手にいつまでも永久に置くことが可能だということは、それはあり得ないことであります。

【記者】 それは分かりますけれども、高レベル廃棄物の処分場だと、この前、高知県の東洋町というところが初めて手を挙げましたけれども、ことほどさようにこの20年、30年全く動いていなくて、あちこちで手を挙げても知事の反対でつぶされたりとか、最終処分場の立地というのは大変難しいわけです。だからそういうのを先の話だ、先の話だと市長おっしゃいますけれども、早目にアクションを起こして、あえて国に何とかせいということをして尻たたかないと、敦賀に永久に置かれて、結局ここにたまってしまうということにな

るんじゃないですか。もう時間がないということでは、そんな先の話ではないと思うんですけれども。

【市長】 おっしゃるとおりで、最初からもっと国もいろいろ段取りよくやれば良かったんですけれども、いろんな反対があったり、行きそうになって行かなかったりということでも苦勞していることは理解できますが、このことについては今技監も言ったとおり、しっかりと最後まで国が責任を持ってやることであるし、私どもも国に対しては、今ご指摘いただいた部分等についてはやはり声は出していきたいと思います。ちゃんとしっかりやってくれよと、こういう不安の声が出ておると。私どもは最後まで置いておくわけにいかんということは決まっておりますので。

【記者】 ちょっと話は戻るんですけれども、ベロタクシーとDMVについてなんですけれども、直流化後の2次アクセスとして取り入れるかと思うんですけれども、どうもその2つにちょっと疑問があるんですが。

要するに、2つとも県に購入してもらって、あと運営は敦賀市でせいというようなスタンスかと思うんですけれども、その辺の採算性とか、ベロタクシーは先ほどおっしゃったように4月からするということなんですけれども、DMVの方は、この前県の方に聞かしても、まだJR北海道が開発中で売ってくれるめども立っていないということで大幅に遅れるというようなことも聞きました。そもそもDMVは要るのかなというふうな感じの声も聞くんですけれども、その辺の採算がとれるのか、必要か必要じゃないか、改めて。

これは知事が言ってきたものだと思うんですけれども、そもそもすごくコストもかかることですし、その辺。

【市長】 DMVですけれども、これは知事が言ってきたわけではないんです。これは私ども、情報の中で、JR北海道がやっていると。変わっているな、これはおもしろいと。恐らくいろんな自治体もいたと思うんです。ところが、いろんな実験をやっているうちに、車体が軽いのでレールの上の信号の機能がちょっとしにくいというんです。普通の列車ですと結構重いですから信号が作動するんですけれども、あれがしにくいというところが見つかって、その改良をやっているということも聞いています。ただ余り重くすると、今度は道を走らなあかんものですから、公道を走る部分との調整をやっておって、今直ちにめどは立っておりませんけれども。

これはやはりアイデアのものでありますし、ただコスト的な問題もありますけれども、実用化されれば、ある程度珍しいというか、そういうものが走っておるひげ線。私は何とかあのひげ線だけは活用したいと思っています。でき得れば、快速電車が、こっちも電化して港駅まで引っ張ったらどうだという話も出ておりますし、あの歴史のある港線をうまく活用する一つの方策としてDMVを考えたんですけれども。時間はかかりますけれども、何とか実用化をしていきたいと思っております。

そんな莫大といいますか、あるものを活用しますので。ただちょっと線路の使用料がかかります、それがちょっと高いかなと。それを何とかちょっとでもまけていただくように実用化するときには話しかけたいと思っております。

例のベロタクシーですけれども、これも採算性のことも少し心配ございますけれども、都市部なんかへ行ったり観光地へ行くと一輪車が結構走っていきまして、あれもそここの人気といいますか、お話を聞くと、場所によるかもしれませんが、ぼちぼちやっていける事業でありますから、観光協会の方であの事業も続けていきたいなというふうに思っております。

【記者】 今なら、まだDMVをやめるというのもありかなと。導入を前提にこれから話を進めていくんですか。

【市長】 はい。基本的には港線の活用を何とかしたいという思いがありますので、DMVの導入の方向でいろいろ検討していきたい。ただ、どうしても最終的に、研究したけれどもやっぱりあかんわと。DMV自体が認められない乗り物になれば導入のしようがありませんので、そうなれば、またほかのあそこを走らすいろんなことを考えたいと思います。

直流を入れると、ちょっとまたお金がかかるね。またJRさんも本当に乗り入れてくれるかという問題もありますので。敦賀港駅というのが出ても、これはいいなという気もしておるんですけれども。

【記者】 関連して、新快速が乗り入れてから3カ月ごとに検証されていくとおっしゃったんですが、3カ月過ぎましたので、その辺のデータとか総括等をどう検証して、どうしていくかという方向性をお示してください。

【市長】 やはり増えていることは増えておりまして、今のところ11月と12月だけを、要するに一昨年と比較して、大体14%の増加になっております。

【記者】 何が14%ですか。

【市長】 これは敦賀駅の乗車人数です。

【市長】 乗っただけで14%増えた。降りたやつはどこに書いてあるの？

【企画部長】 通常それを2倍するというのが乗降者数という形でなっております。JRの方に確認しますと、降りたのはJRとしてはそういう資料はないと。

【市長】 乗った人数は切符で分かるけれども。大体乗れば降りる。

【企画部長】 通常、乗った人の倍を掛けるのが普通ですよという話で。

【市長】 乗車人数で書いてある。

【記者】 前の年の11月、12月と比較してということですか。

【市長】 そうです。

【記者】 これはどうですか、予想、14%という数字は。

【市長】 私も何%というのは最初はつかみ切れなかったんですけども。

【記者】 去年の11月はどれぐらいあったんですか。

【市長】 例えば11月を見ますと、11月だけで10万412となっていて、その前の年が8万5859人。12月が昨年ですけども9万3387人、その前の年が8万3670人というふうになっております。1日当たりで見ますと3177人ですから、前と比べて398人増えております。月平均でも大体1万2000人ぐらい増えたということになっています。

【記者】 今読んでいらっしゃる資料をいただけないのでしょうか。

【市長】 出します。

【記者】 先ほどの質問に出ましたけれども、それを受けて、どう受けとめられていて、今後その検証した結果をどうか生かすのか。

【市長】 増えてはおるんですけども、まず維持するのと、増やしたい。去年の今時分のデータはありませんから、例えばことしの10月、12月になったときに、今出たデータの比較をして、それがちょっとでも増えるように持っていきたいと思います。3カ月ごとで、できれば欲ですけども少しずつ緩やかなカーブでいいですから、これがやはり増えていけるように最善の努力はしたいと思います。

【記者】 どういう方策というか。

【市長】 やはりポイントごとのイベントが必要だと思いますし、あとPR活動、それと

例えばお客さんの声で食べるところが少ないという声もありますので、またいろんなうちの組合なり民間に働きかけてそういう部分の整備を進める。それと、先ほど言いました人道の港のいろんな充実。それにあわせた芸術村構想。それは、またある意味ではいろんなイベントにもつながりますので、そういうものを含めて、常に一遍敦賀へ行ってみようかなと言われるものを観光協会なりとも連携をしたい。

またPRの中で、前にも行ったんですけども観光のエージェントといいますが、ああいう皆さん方を呼んでいろいろな懇談をやったり。これは言ってもいいのかな、関西のマスコミの皆さん方にも一遍来ていただいて、懇談会なり見ていただこうと思っております。

やっぱり宣伝が一番大事かなと。それと、来てもらった人の印象。これは100%皆さんが良かったのではないと思います。たまには当たりの悪い人は愛想の悪いところに当たるかもしれんのですけれども、今のところは全体的には良い印象を持っていただいているのかなと思っております。

【広報広聴課長】 時間が少ないので残り1問にしたいかと思いますが、よろしいですか。

【記者】 4月の市長選のことなんですけれども、最近の県内の首長選挙だと、西川知事とか坂川市長とかマニフェストを掲げて選挙に臨まれる方が非常に多くて、就任後もマニフェストに基づいて施策を実行される方が非常に増えているんですけれども、河瀬市長は次期出馬に当たって何か具体的な政策公約のようなものをマニフェストにするとか。

【市長】 公約は毎回挙げさせていただいておりますので、今回も自分なりの公約をちゃんとまたお示しをしたいなと思っております。大体基本的には、第5次総合計画、また総合計画のきょうは後から答申もいただけるということで、3期のやつもできてまいりますから、その完成をまず目指すのが一つの公約であるんですけれども。

そういう中で、先ほど言いました直流化元年であると。直流化の受け皿なりお客さんを増やしていく一つの方策なども自分なりの政治公約として挙げさせていただいて、また市民の皆さん方にお示しをしていきたいと思っております。

【広報広聴課長】 では、定刻になりましたので、これで終了いたします。

午前12時00分 終了